



～文化遺産を訪ねて歩こう!!～

4月号から来年3月号までの上尾歴史散歩は、『あげお歴史探検マップ』をもとに、市内の文化遺産を訪ね歩く市内の散策コースを紹介します。4～6月は、大谷地区周辺のコースを巡ります。



堤崎の愛宕神社にある「車地藏」



二つの愛宕神社が映す過去と現在

今回歩くのは、近年の上尾道路の開通と、それに伴う周辺地域の開発によって、少なからぬ影響を受けた地域である。徳川家ゆかりの「十連寺」③を後にして西へと進み、今泉小学校と児童館こどもの城の間を抜けて市民体育館通りに戻る。上尾道路の壱丁目北の交差点を左に曲がると、道に寄り添うように、壱丁目の「愛宕神社」④が鎮座している。道路の整備によって緑豊かな社叢は姿を消したが、市の指定文化財である「愛宕神社(本殿)」は、新しい社殿(覆屋)の中

刻まれる。また、境内の一角には、念仏を唱えながら回すと極楽往生できるといわれる石車を持つ「車地藏」がある。市内では他に類例がなく、貴重なものとして指定文化財となっている。この「車地藏」の台座には「東 上尾原市道」、「西 川越平方道」、「南 秋葉与野道」という文字が刻まれており、かつて道標として街道の交差する場所にあったことを、訪れる人に伝えている。

今回歩くのは、近年の上尾道路の開通と、それに伴う周辺地域の開発によって、少なからぬ影響を受けた地域である。徳川家ゆかりの「十連寺」③を後にして西へと進み、今泉小学校と児童館こどもの城の間を抜けて市民体育館通りに戻る。上尾道路の壱丁目北の交差点を左に曲がると、道に寄り添うように、壱丁目の「愛宕神社」④が鎮座している。道路の整備によって緑豊かな社叢は姿を消したが、市の指定文化財である「愛宕神社(本殿)」は、新しい社殿(覆屋)の中

刻まれる。また、境内の一角には、念仏を唱えながら回すと極楽往生できるといわれる石車を持つ「車地藏」がある。市内では他に類例がなく、貴重なものとして指定文化財となっている。この「車地藏」の台座には「東 上尾原市道」、「西 川越平方道」、「南 秋葉与野道」という文字が刻まれており、かつて道標として街道の交差する場所にあったことを、訪れる人に伝えている。

市民体育館通りから太平洋中学校に向け南下し、地頭方の交差点を右に曲がる。N.T.T(日本電信電話株式会社)のビルの前で左斜め前方の細い道に入り、しばらく足を進めると、右手にこんもりとした雑木林が見えて

くる。この林の中にある小さな塚の頂上には、市指定文化財である「万治二年銘庚申塔」⑤がある。市内にある140基ほどの庚申塔の中で、最古の万治2(1659)年の銘を持つ。

市民体育館通りから太平洋中学校に向け南下し、地頭方の交差点を右に曲がる。N.T.T(日本電信電話株式会社)のビルの前で左斜め前方の細い道に入り、しばらく足を進めると、右手にこんもりとした雑木林が見えて

くる。この林の中にある小さな塚の頂上には、市指定文化財である「万治二年銘庚申塔」⑤がある。市内にある140基ほどの庚申塔の中で、最古の万治2(1659)年の銘を持つ。

今に伝わる祈りの文化

荒川周辺に花開いた文化

人と文化が繋いだ町

街道に刻まれた歴史